

令和4年度第1回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和4年7月20日(水) 午後7時00分 開会 午後8時10分 閉会
場所	ZOOM会議
出席者氏名	大木教久委員長、松井久芳委員、佐藤崇委員、山口哲也委員、大久保敦子委員、榎本浩幸委員、佐藤貴之委員 事務局(望月病院長、藤浪副院長、益原患者支援センター所長、福田中央診療部長、山岡看護部長、江崎患者支援センター担当長、岩澤事務局長、岡野がん相談専従看護師、小川病院経営企画課長、内田医事課長、猪瀬医事課主査)
資料	・ 地域医療支援委員会次第 ・ 資料1-1 紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-2 診療科別紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-3 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 ・ 資料1-4 予約検査の件数表 ・ 資料1-5 患者支援センター相談実績 ・ 資料1-6 地域医療機関と連携した研修会等実績 ・ 資料1-7 登録医救急診察専用回線集計表 ・ 資料1-8 地域医療研修会 ・ 資料2 がん相談支援センター実績報告 ・ 資料3-1 医療機関別救急車搬送患者受け入れ状況 ・ 資料3-2 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

<午後7時00分 開会>

○事務局（益原患者支援センター所長）

皆様こんばんは。委員の皆様におかれましては、お忙しいところ茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより令和4年度第1回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開催いたします。委員数10名に対しまして、本日は今現在、7名の委員にご出席いただいておりますので、委員会が成立いたしますことをご報告いたします。これより先の議事進行につきましては大木委員長にお願いいたします。大木委員長、よろしくお願いたします。

○大木委員長

円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

それでは議題に移ります。まず、議題（1）の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

それでは、令和3年4月から令和4年3月の患者支援センター業務実績について、説明させていただきます。

資料1-1をご覧ください。紹介率・逆紹介率の表です。令和3年4月から令和4年3月の紹介率の平均は、82.1%、逆紹介率の平均は、82.5%です。令和2年度平均と比較して初診患者数、紹介患者数、逆紹介数共に約130~200人ほど増加しています。地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%以上、逆紹介率40%以上の基準を満たしております。

資料1-2をご覧ください。令和3年度診療科別紹介率・逆紹介率の表です。令和3年4月から令和4年3月の年度累計で見ますと、紹介率は、放射線治療科、腎臓内科、循環器内科の順に、また逆紹介率は、腎臓内科、放射線治療科、呼吸器外科の順に高くなっています。紹介患者数の多い診療科は消化器内科が2,268件、放射線診断科が1,789件、整形外科が1,153件となっており、昨年度と比較しますと消化器内科は522件、次いで放射線診断科は443件、整形外科が263件増加しております。

逆紹介患者数の多い診療科は消化器内科が2,969件、放射線診断科が1,797件、循環器内科が1,430件となっており、昨年度と比較しますと消化器内科が868件、次いで放射線診断科が440件、循環器内科が316件増加しています。

また、歯科口腔外科が開設され2年目となりますが昨年度と比較して紹介患者数は279件増加し、逆紹介患者数は269件の増加となっております。

資料1-3をご覧ください。令和3年4月から令和4年3月の累計紹介元・逆紹介先医療機関一覧です。紹介元は、医療機関名と紹介患者数、その内の検査件数を表しています。紹介元および逆紹介医療機関共に、やまもと内科クリニック、大木医院、藤川整形外科の順に多くなっています。

資料1-4をご覧ください。予約検査の件数表です。令和3年4月から令和4年3月の

実績です。前年度と比較して増加している検査項目は、CT、MRI、CF、GF、腹部エコー、甲状腺エコー、頸動脈エコー、脳波、筋電図です。その中で特に、頸動脈エコー、筋電図は大きく増加しています。また栄養指導件数も増加しています。土曜日の検査予約につきましては、4月から1年間で122件の紹介があり、前年度と比較し35件増加しています。

資料1-5をご覧ください。令和3年4月から令和4年3月までの月別相談延べ件数表です。相談には、看護師と社会福祉士が対応しています。相談対応総数は14,531件で、相談内容の多い項目としては、転院に向けての退院相談が最も多く、次にほぼ同数で在宅退院の相談、次に看護相談の順となっています。今年度は、転院相談がやや増加傾向にあります。対応方法は面会制限の影響と院外関係者とのカンファレンスの開催ができない状況であったため、電話での相談対応が前年度と比較して2,277件増加し、院外関係者との連絡調整が1,552件増加しています。

資料1-6をご覧ください。地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。4月から3月までに16回開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の落ち着いた時期と重なったため、今年度は、「茅ヶ崎周産期連携カンファレンス」「内科・外科医会症例検討会」の1回は開催できています。今年度も新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながらセミナー等の開催を行っていきたいと考えます。

資料1-7をご覧ください。令和3年度の登録医救急診察専用回線の対応件数となります。対応件数は347件で前年度より91件増加しており、認知度も高まってきたと考えます。入院になったケースは145件で、約41%となっており、回線の目的にあった患者さんのご紹介を多くいただいています。診療科については、例年通り小児科が最も多く、次に内科一般となっています。入電時間も例年と変わりなく、午前は11時台で午後は16時台が最も多くなっています。医師の交替等により、医師におつなぎするのに時間を要してしまうケースも時に発生しております。問題ケースは改善をはかりながら、なるべくお待たせすることなく、ご指定の診療科医師におつなぎできるよう努めてまいります。

資料1-8をご覧ください。第2回目の地域医療支援研修会の資料となります。1回目と同様、紙面による研修会としました。「がん」をテーマとし、講師をがん専従看護師の岡野と緩和認定看護師の菅原が担当しました。対象は、訪問看護ステーションおよび地域包括支援センター40ヶ所とし、事前に研修内容についてご意見やご要望を確認のうえ資料を作成しています。研修項目はご覧のとおりとなります。研修後のアンケート調査では、在宅医療、介護に活かされる内容であったとのご意見をいただくことができました。アンケート回収率は25%であったため、より多くの評価いただくため回収に向けたアプローチが必要であったと考えます。そして、今年度は、対象を広げ顔の見えるかたちでのZoomを使った研修会を予定し準備を進めております。

○大木委員長

説明が終わりました。議題(1)について委員の皆様からご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

令和3年度は、紹介患者や救急搬送も含めてだいぶ回復してきたと捉えられると思いま

すが、令和2年度と令和3年度の違いはどのように市立病院として理解されているでしょうか。回復した理由は、コロナ禍での紹介の改善があるかなど市立病院はどのように分析されているでしょうか。

○事務局（益原患者支援センター所長）

令和3年度は、令和2年度と同様にコロナと戦いながら通常の一般診療をできるだけ拡大しながらやっという方針で行ってまいりました。ベッド制限なども県や国から指示が無い限りは極力並列でやっというと考えており、一般の患者さんの受け入れを制限することをなるべく減らしてやっというとした結果と考えています。医師会の先生方からもたくさんご紹介いただき、ありがとうございました。

○大木委員長

他に質問はありますでしょうか。

○大木委員長

特にないようですので議題（1）は終了したいと思います。いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（1）は以上をもちまして終了といたします。次に議題（2）のがん相談支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（岡野がん相談専従看護師）

がん相談支援センター令和3年度1年間の業務実績についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。相談件数は、1年間で延べ936件です。前年度より318件減少しました。支援方法は、対面相談が623件・電話相談が313件です。電話相談が、56件減少しております。

前回の会議でご質問いただきました令和2年度の相談件数が多かった件に関して報告いたします。相談実績の月別相談件数比較につきましては、相談の延べ件数を記載していません。1人の患者さんが複数回相談に来られた際は、その回数分計上される為、相談件数＝相談人数とはなりません。相談件数の過去3年間をみますと、令和元年度875件、令和2年度1,254件、令和3年度936件となります。令和3年度の実績がコロナ渦以前の令和元年度より多くなっていることを鑑みますと、令和2年度が例年に比べ多かったと考えます。令和2年度が多かった理由としては、コロナ渦で手術をしてよいかなど不安を訴える相談が増えた事や、意思決定支援、心理面に関する相談で同じ患者さんやそのご家族がリピートして相談に来られるケースが増えたこと等が考えられます。

相談依頼ルートについては、患者ご本人が一番多く382件、次にご家族が263件、医師からの依頼が141件、看護師より46件ありました。

相談内容の内訳については症状・副作用・後遺症の相談が397件、がんの治療について279件、在宅医療268件、ホスピス・緩和ケア141件、不安・精神的苦痛は137件でした。

また、抗がん剤治療中の副作用への不安や食事が取れなくなってしまう際にどうした

らいいのかなどの相談もあります。

今後も引き続きがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえる様に周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（2）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

主に内科、外科系の先生が、がんに関しては関わり合うことが多いと思います。内科の立場から伺いたいですが、たしかに令和2年度が多く、令和元年度と令和3年度が同じくらいの相談件数であるが、我々茅ヶ崎医師会の内科会を中心とした在宅とがんの緩和ケアをやっている水沼先生や引野先生に聞くと、令和3年度から令和4年度にかけてがんの看取りの方が非常に増えてきている。がんの検診数が少なくなって、がんの発見数が少なくなっている。受診控えと言いますか、末期がんに進んでしまっているのではないかとの懸念を医師会のメンバーは持っています。この件数が本当はがん患者の受診が減って件数が減少しているという懸念も見られなくないかと思いましたが、実際に臨床をやっている先生方はどのようにお考えになっているのでしょうか。

○事務局（藤浪副院長）（29：46）

例えば、僕らで言えば前立腺がんですが、まず針生検自体がコロナで患者さんが増えた時にはお断りするべき第一のものとなっています。そこから診断が減っているのは、間違いないと思います。昔であればPSA4前後で送っていただいていた患者さんも、ちょっと待ちましょうかとの形になっており、より早期での発見は見つかりにくくなっているのは事実であろうと思っています。しかし、ある程度進行したものはコロナであっても診察していますので、早期が減った＝末期まで行ってしまうというのは、なんとも難しいところです。がんによっては、そのようなこともあるかもしれませんが。泌尿器の状況ではそのような状況です。

○大木委員長

僕はがんの専門科の内科ではないですが、早期発見ということが市立病院と医師会の問題ではないと思いますが、なかなか早期にがん検診を受けていただけないことや早期発見が遅れていることは、がんを診察している先生方はおっしゃっているので、そこは今後心配される場所ではないかと考えています。

○事務局（福田中央診療部長）

肺がん検診を通してですが、コロナ禍で肺がん検診での胸のレントゲンを受ける方が確実に減っています。やはり胸部異常陰影が早期に見つかる機会が減っていると実感しています。実際、肺がんで、外来など胸部異常陰影で今年来た方が、去年レントゲンを撮影したかを確認すると1、2年撮影していないなど、検診を1、2年コロナ禍で控えている方が

多いと懸念されていて、そのような数になったと考えます。今年は、例年になっているようなので今後は先生方と医師会の肺がんの検診をがんばりたいと思います。よろしく願いいたします。

○大木委員長

がん検診は、肺がん検診とがん検診を共同でやらせていただいています。非常に我々医師会も助かっています。特にがん検診というのを多くの方に受診してもらおうというのを市役所も含めやっていかなければいけないと考えています。

○大木委員長

他に質問などございますか。

○大木委員長

特に質問がなければ、議題（２）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（３）の救急搬送状況について事務局より説明をお願いします。

○事務局（内田医事課長）

それでは、医事課内田よりご説明させていただきます。

資料３－１の上段の表をご覧ください。こちらは、今年３度の茅ヶ崎市消防の搬送件数を搬送先医療機関別に月ごとに集計したものでございます。一番右側平均の欄でございしますが、昨年度１年間の平均で月 943 件のうち 313 件、割合は 33.2%が市立病院に搬送されております。次に湘南藤沢徳洲会病院が 259 件で 27.4%、湘南東部病院 13.4%、茅ヶ崎徳洲会病院の 13.3%の順になっております。なお、市立病院への搬送割合は、令和２年度と比較しますと 4 ポイントの減少となっております。中段の表につきましては、同様に寒川町消防の搬送件数を集計したものでございます。月平均 189 件のうち 36 件、19.2%が市立病院に搬送されており、市立病院は湘南東部病院 31.4%、湘南藤沢徳洲会病院 21.1%、に次いで 3 番目となっております。下段の表につきましては、診療科別に救急車搬送件数を表したものでございます。内容については後ほどご覧ください。

次に資料３－２をご覧ください。こちらは、令和３年度の茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数を地区別に分類したものでございます。表一番下段の左側の茅ヶ崎地区の合計件数 3,429 件のうち、1,017 件が市立病院に運ばれており、割合は 27.1%となっています。以下、鶴嶺地区からは 1,174 件で 31.3%、松林地区からは 1,381 件で 36.8%、小出地区からは 174 件で 4.6%、その他寒川町等からは 9 件で 0.2%となっています。また、各地区の搬送件数における市立病院への搬送件数の割合は、茅ヶ崎地区で 29.7%、鶴嶺地区 35.4%、松林地区 35.3%、小出地区 28.2%となっています。説明は以上でございます。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（３）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山口委員

令和2年度と比べてすごく救急搬送件数が増えています、何か理由はご存じですか。7と8月が突出して多いので、恐らくRSウイルスが流行ったことが原因かと考えています。今年もヒトメタニューモウイルスが流行っているのも同じ状況になるかと思えます。小児科の特性として振れ幅も大きいのでご対応をよろしくお願いいたします。

○事務局（益原患者支援センター所長）

去年は、夏の時期にコロナの感染がピークだった時期に小児科のRSウイルスの患者さんが非常に多く、熱発の患者さんが非常に多かった時期と搬送件数が多かった時期が重なっていると思います。今も小児科の熱発の患者さんが非常に多いですが、コロナであったり他のウイルス性疾患だったりが入り交じった状況で、小児科の先生方が非常に苦労しながら頑張っている状況です。医師会の先生方にもお力添えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○大木委員長

他にございますか。

○大木委員長

今年の冬は、医師会としてはインフルエンザがコロナと同時流行するのではないかと想定して体制を整えようと神奈川県医師会と茅ヶ崎医師会では考えています。そこで、インフルエンザになると大人だけでなく、小児でも搬送が増えると予想されるのでRSも小児にとっては大変な疾患ですし、流行というものが市立病院に負担をかけないといいなと思います。

○大木委員長

他に質問がなければ議題（3）を終了したいと思います。いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（3）は以上をもまして終了いたします。次に議題（4）のその他について、委員の皆様、事務局より何かございますか。

○山口委員

地域連携室にお伺いしたいことです。今年度になってから患者さんが紹介受診した際の連絡FAXが、以前は当日か翌日にいただいていたものが最近平均5日位、場合によっては2週間後の紹介状と一緒に入っているようなケースもあつたりします。何かシステムが変わってしまったのかと心配をしています。いかがでしょうか。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

患者さんが診察に来ましたとのお返事ということでしょうか。

○山口委員

そうです。小児科は急性疾患が多いので紹介状を渡した患者さんが当日受診されたのか今までは確認できていたのですが、4月あたりから急に遅くなっています。何かシステムが変わったのでしょうか。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

システム自体は変わっていないですが、委託業者の担当が変わりました。まだ慣れない中で業務を行っている状況のため、皆様へご迷惑をおかけしていることもあるかと思いません。確認します。申し訳ございません。

○大木委員長

たしかに山口先生のおっしゃる通り僕も感じていました。FAXの届きが遅くて、本当に来たのかと感じていました。1、2日遅れるのは若干ありますが。

○事務局（江崎患者支援センター担当長）

配置人数が3名から4名の配置になりましたが、1名を残した以外は全員担当者が変更となりました。そのため、伝えながら業務を行っていますが、うまくまわっていない部分もあったかもしれません。申し訳ありませんでした。

○山口委員

実は、お電話した際に直接お尋ねしました。最近どうしたんですかと尋ねたところ、順番にやっていますとのお話でした。チェックされた方がよいと思います。

○事務局（益原患者支援センター所長）

申し訳ありません。お教えいただきありがとうございました。今後、大至急改善したいと思います。ありがとうございます。

○大木委員長

その他に委員の皆様から何かありますでしょうか。

○大木委員長

特になければ、本日の議題はすべて終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第1回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。ありがとうございました。